

第6回多摩区区民会議

日時 平成25年11月12日（火）午後6時

場所 多摩区役所 6階601会議室

出席者：委員・・・安倍修司、荒井精一、石橋吉章、岩崎宏政、大津努、小塚千津子、辻野勝行、戸高仁子、配島裕美、原田弘、藤原司、細埜隆己、本多正典、松本英嗣、吉田輝久

：参 与・・・井口参与、河野参与、露木参与

：区役所・・・池田区長、土谷副区長、区民サービス部：高橋部長、保健福祉センター：林所長、石戸副所長、こども支援室：池田室長、道路公園センター：浅井所長、危機管理担当：森田課長補佐、総務課：布川課長、企画課：門間課長、飯塚担当係長、奈良職員、澤野職員

傍聴者：2名

第6回 多摩区区民会議

日 時 平成25年11月12日(火)午後6時

場 所 多摩区役所 6階601会議室

午後6時1分開会

1 開会挨拶

事務局 若干定刻を過ぎております。見えられていない委員の方もいらっしゃいますが、委員長、開会をよろしくお願いいたします。

大津委員長 それでは、皆さん、こんばんは。気候の大分激しい動きで、我々老骨には非常にこたえる時期になりました。第4期の区民会議も昨年8月から始まりまして、本日は申し上げるまでもなく第6回の全体会議となりました。この間、特に両部会では10回の部会でいろいろな協議と審議を重ねていただきまして、方向性もかなり煮詰まってきたのかと思います。本日は、その審議結果を報告いただき、全員で意見交換をし、最終的には11月23日の区民会議フォーラムにおきまして区民の皆様に御提案申し上げて、御意見も拝聴して、最終的なまとめをし、区長への提言に結びつけたいと思います。本日は、よろしく御審議をお願いいたします。

それでは、議事に入る前に事務局から、本日配付いただきました資料並びに議事の進行要領の注意等をお願いしたいと思います。

事務局 事務局から、会議の公開について説明させていただきます。

区民会議は、本市の審議会等の会議の公開制度が適用される会議に該当しております。したがって、本日、傍聴及びマスコミの取材を許可しておりますので御了承ください。なお、本日の傍聴者の方々へのお願いでございますが、受け付けの際にお渡ししました注意事項をお守りくださいますようお願いいたします。また、会議につきましては、会議録を作成し公開することとしておりますので、会議終了時まで録音させていただきます。御了承ください。

なお、区役所の記録及び市政だよりや区ホームページなどへの広報用としまして会議の様子を写真撮影させていただくことがありますので、御了承くださいますようお願いいたします。

次に、お手元の資料の確認をさせていただきます。

ホチキスどめの資料ですけれども、第6回区民会議次第と書いてあるものでございます。まず、1ページ目に区民会議委員名簿があります。2ページ目に区民会議座席表、3ページ目に区民会議開催スケジュール、4ページ目にコミュニティ部会の検討用シート、5ページと6ページが自然災害部会の検討用シートになっております。7ページから最後までは区民会議フォーラムのプログラム(案)をつけさせていただいております。8ページ目には区民会議フォーラム概要、9ページ目から区民会議フォ

ーラムのパワーポイント資料をつけさせていただいております。25ページには区民会議フォーラムのレイアウト図、26ページに区民会議フォーラムのアンケート、27ページと28ページに区民会議フォーラムのそれぞれの部会の意見交換の進め方をつけております。

資料については以上です。

大津委員長 ありがとうございます。

皆様、資料に欠落等はございますか。よろしゅうございますか。

それでは、早速議事に入っていきたいと思います。

2 議 事

(1) 部会での審議状況と意見交換

- ・コミュニティ部会
- ・自然災害部会

大津委員長 本日の議事は、次第に書いてございますが、大きく2つございます。部会での審議状況とその結果の意見交換、2つ目が今事務局からお話しございました区民会議フォーラムについてでございます。

まず初めに、各部会での審議状況についての報告を、コミュニティ部会、その次に自然災害部会の順にお願いしたいと思います。コミュニティ部会の辻野部会長、よろしくお願いたします。

辻野委員 では、早速ですが、大津委員長から指示がありましたので、コミュニティ部会の顔の見える地域に根ざした絆づくり構築への提言について、今日はその審議状況の結果のまとめと、もう1つはフォーラムへの提案内容、大きくはこの2点について、資料を使いながら報告させていただきます。

では、まず第1点は、1ページ目の資料1にあるとおり、私たちのメンバーは、名簿の5番大津委員長、7番国保委員、8番小塚委員、9番白井委員、10番私、11番戸高副委員長、12番西山委員、14番配島委員、18番本多委員、19番松本副部会長、そして3番石橋副委員長に参加していただいて、11名のメンバーで検討してまいりました。

その状況について、3ページの資料3をごらんになってください。下段にコミュニティ部会、第1回の昨年11月6日から前回の10月29日、この10回の意見交換、検討を重ねてまいりました。

その結果、4ページの資料4、「顔の見える地域に根ざした「絆」を構築する」検討用シートにあるとおり、現状と課題、解決の方向・解決策、その結果として全員の合意のもとに、右端のまとめとなっている具体的な取組、誰がどのようにどうするという具体的な取組についての結果が、合意した事項としてそこに提示させていただい

ています。

その2つの提案です。1つは、「地域に参加してもらいしかけづくり」というところでは、(1)イベントカレンダーの作成、(2)多様な趣味にふれあえるしかけ、(3)農業の切口から地域の絆が生まれるしかけ、これについて具体的な取組を提案としてまとめさせていただきました。もう1つ、下段の「コミュニケーション能力を育む」というところでは、(1)あいさつ運動の展開。詳細についてはここに記載しているとおりですが、このような結論が得られましたので、この提案のもとで、フォーラムでは区民の意見を聞かせていただくと同時にアイデアをいただいて次の段階に、結論に入っていきたいと考えています。

そこで、フォーラムでの提案の内容については、18ページにコミュニティ部会の資料が入っていますので、開けていただけたらと思います。

コミュニティ部会としてのフォーラムでの提案内容は、既に今、具体的な取組というまとめのところで説明させていただいたとおり、2つの提案をさせていただきます。1つは「地域に参加してもらいしかけづくり」、重複になりますけれども、(1)イベントカレンダーの作成、(2)多様な趣味にふれあえるしかけ、(3)農業の切口から地域の絆が生まれるしかけ。2つ目の「コミュニケーション能力を育む」というところでは(1)あいさつ運動の展開。2つの具体的な取組をフォーラムで提案させていただいて、具体的な意見、アイデアをいただく。

その具体的な提示する内容としては、19ページ、まずイベントカレンダーの作成です。これについては例示として、春夏秋冬、1月から12月、1年間の多摩区内の大きなイベントをこういう形でカレンダーにして、皆さんの視覚に訴える。そして、イベントカレンダーの作成の進め方としては、どういう体裁にしていくか。イベントマップのわくわく感が出るような、人を引きつけるような、見て参加したくなるような、そういう何かうまい仕掛けができないかな。こういう点は、提示しながら意見、アイデアをいただけたらと考えています。

20ページ、多様な趣味にふれあえるしかけについては、実は市民館デーで、碁、将棋、マジック、トランプ等をやって、参加者の方からも非常にいい絆づくりの場として好感触を得られましたので、この点を一つのポイントとして提言の中に盛り込んでいきたい。ここについては、実は役割分担という点では国保委員が、フォーラムの中でもマジックを見せたりしながら、皆さんのビジュアルに興味を引くような何かをできたらということで、国保委員に説明をしていただくという形になっています。

それから、農業の切口から地域の絆が生まれるしかけについては、いろいろと検討を重ねてきたのですが、先般、11月2日、戸高副委員長と一緒に芋掘りと芋煮会のイベントに参加してまいりました。これについての仕掛けは、絆づくりという点では非常にいいイベントと感銘は受けたのですが、段取りはやはり数カ月かけて、1年か2

年がかりだなという感触を得ましたけれども、具体的なところについては戸高副委員長が最後までいていただいて、感触があったと思いますので、御意見をいただけたらと思うんですが、いかがですか。

戸高副委員長 見学させていただいた企画は、菅町会の皆さんの御協力と、個人が持っていらっしゃる畑を1年間かけて前の年からこの企画のために準備していただいているという形で、そのほかによみうりランドのほうも全面的に、個人の畑が近かったものですから、バックアップをしてくださっています。地域の若い子育て中のお父さんやお母さんが参加できる芋煮会の企画でした。このような形でできていること自体が本当に恵まれている企画だなと思いました。多摩区らしい切り口ではありますけれども、こういう方がいらっしゃるものがまず本当にありがたい企画になっていると思いましたことと、菅町会の、いろんな方へのアピールをしたいということで、協力体制ができていることが、結構大きい形で全体を巻き込んだ、安定した4年間の企画になってきたんじゃないかなということを当日参加させていただいて感じました。

辻野委員 どうもありがとうございます。

今、戸高副委員長から説明があったように、このとき小嶋さんという農園主の方とお話しして、これだけの段取りをするのはどれぐらいかかるのですかといったら、土の問題、そこで里芋を植える段取りということも考えたら、2年がかりだとおっしゃっていました。もちろん町内会・自治会が中心になってのすばらしいイベントなんです、そういう意味では、今回のコミュニティ部会の今年度の具体的な対応としては時間的な点からもできかねるので、提言として出しておこうという形になりました。そういう意味では、農業の切口から地域の絆が生まれるしかけというテーマを提案として出させていただくという結論に達しましたので、その点をつけ加えておきます。

最後になりますが、「コミュニケーション能力を育む」という点では、あいさつ運動の展開。ここでは、フォーラムのときの役割分担として本多委員に対応していただくことになっていますので、本多委員から意見があれば一言。

本多委員 突然私に振ってこられたのですが、このコミュニケーション能力を育むということが絆をつくるには非常にいいんじゃないかということで、皆さんと検討いたしました。挨拶がその一つかなということで、以前、ラジオ体操が私たちの子どものころにはありました。最近シニアの方が公園で体操をしていますけれども、そのときに子どもたちも来て、世代間のいろんな交流ができているんじゃないか、あるいは自治会でクリスマス会を開いて世代間の交流をやっているんじゃないかということで、コミュニケーションを育む一つの手段としてあいさつ運動を展開してみようということを考えております。

21ページにもあるんですが、そのために多摩区であいさつデーとか、月間とか、あいさつの標語、川柳といった、日ごろ啓発するための手段を何か講じることができれ

ば、区民の間でのいろんな絆、コミュニケーションがもっとできるんじゃないかというのを考えて、フォーラムに臨みたいと考えております。

辻野委員 ありがとうございます。

このあいさつ運動については、今、本多委員からもお話がありましたようにラジオ体操だとかの展開も考えましたけれども、縁薄れ、心遣い忘れる、その再生は挨拶からというのが、青木保という先生が新聞等でも出していて、おもてなし文化の原点もやはり簡単な挨拶、こんにちはとか笑顔から始まるということも出ていました。最終的に、打ち合わせの結果、あいさつ運動という形で提案していこうということになりましたので、本多委員がフォーラムのときにやっていただけるということで、皆さんに御報告させていただきます。

私からの報告は以上ですが、松本副部長、補足することがあれば。

松本委員 特にありません。ありがとうございます。

辻野委員 あとは、各委員からまた話があると思いますので、またひとつ皆さんよろしくお願いたします。私のほうからは以上です。

天津委員長 辻野部長、本多委員、ありがとうございました。

それでは、今いただきましたコミュニティ部会の報告に対しまして、各委員から忌憚のない御意見等をお願いしたいと思います。それでは、前回同様に各委員から一言ずつ、もしくは二言でも結構です。お願いしたいと思います。今日はこちらから行きたいと思います。

吉田委員 21ページのあいさつ運動の展開、これは非常に素晴らしいことだと私は思っております。ラジオ体操とかにつきましては場所だとか、やる方がいないとラジオ体操そのものはなかなか難しいと思うんです。あいさつ運動を展開してはどうかということにつきましては、挨拶は何もなくても、おはようでも、さようならでも言えるので、ぜひこのようなあいさつ運動というのか、多摩区あいさつデー、そういうことをやっていけば、すごくいいなと思っております。

松本委員 松本です。コミュニティ部会に所属しております。

今のあいさつ運動ですけれども、最初はもっといろんな場を、町会とかいろんな場があったときに、お互いに絆づくりもできないかということでスタートいたしまして、そういえば世代を超えた挨拶なんていうことになりました。あいさつ運動ってありきたりだとは思いますが、やはり今こういう世の中でとても欠けているんじゃないかということで、無理やりでも挨拶をしてみ、そして、してみればお互いに何か近い関係になるんじゃないかという思いで、あいさつ運動を進めていったらいいかなと思っております。

あと、イベントカレンダーですけれども、考え方としてとてもいいんですけれども、実際にこれをやろうと思うんですけれども、現実、具体的に検討をしてみると、

どういふことをしたらいいのかと結構思っています。例えば町会・自治会の主催ですと、町会・自治会の会員に限るようなイベントとか、主催者が限定的な活動、イベントということになってしまうので、どこまで出したらいいのか。いろんところでいろんなことがやられていまして、それぞれがチラシをつくって、例えば町会の回覧等でやっているんですが、いっぱいあって、逆に余り見ないようなことになってしまうので、カレンダーみたいにしておけば、自分の興味のあるところに目を通していただいて、改めてその団体がつくったチラシなんかを見ていただければよろしいんじゃないかなということです。ぜひイベントカレンダーをやって、多摩区の人がどこかの行事にちょっと行ってみようかなという思いが出てくれば、とてもよろしいんじゃないかなと思っています。

本多委員 今、松本さんがイベントカレンダーで御指摘があったメリットについてはたくさんあって、私もこれはいいなとは思っているんですが、自治会とかいろんところでやられるイベントは、なくなったりするんです。そういったフォローアップを誰がどのようにやっていったらいいかということが課題になっているなと私自身ちょっと感じております。

それから、21ページのあいさつ運動ですが、ふだん小学生の子どもたちの登下校で我々は安全の見守りをして、挨拶はしているんです。もう1つは、私のところの自治会ですと、小さな自治会なのでクリスマス会を開きまして、子どもたちもたくさん出てきて、この町会にこういう子どもたちがいるんだとシニアとか大人の方が知ることによって、子どもたちがいろんな犯罪に巻き込まれることを防ぎたいということがあります。そういった事柄も含めて、挨拶というものは非常に重要だなと考えております。今後、こういうあいさつ運動を展開していくにはどういう形で進めていけばいいのかということがちょっと課題で、これから我々の審議していくところかなと考えております。

細埜委員 細埜と申します。自然災害部会であります。

農業の切口からというタイトルの仕掛けなんですけれども、私どもの町会の子ども会では、ここ2年ぐらいやっていないんですが、過去、芋掘りとか、毎年作物を収穫するというのを続けてやったんです。参加者もほかの行事よりも多いですし、子どもたちも生き生きして、ほとんど毎回、お母さんたちから、うちの子は何々が嫌いだったんだけど自分でとってきたら食べるようになったとか、そういう声が多く聞かれます。

それと、あいさつ運動ですけれども、登戸小学校では、安心・安全のまちということで、老人会が主体となって登下校を筋に立って見守っています。老人会の方に聞くと、初めはみんな挨拶もしなかった。だけど、ひとりでの挨拶をするようになって、初めは嫌々参加していた人も楽しくなってきたり、だんだん顔なじみになってくると、

そこを通る時間にあの子が通らないとかと心配になる。そのぐらい知り合いになってくるといことで、やっぱり続けることはいいことだなと思います。

藤原委員 藤原でございます。

私も子どもたちの朝、昼の立ち番をやっているんですけども、最初のころはやっぱり挨拶しないですね。ところが、だんだんなれてくると挨拶してくれて、帰りなんかはいつも、おお、お帰りなんて私とハイタッチをして帰る。だんだんなれてくれば、そういうふうな感じのできるわけですけども、ところが、最近は学校によっては人と余り話をするななんていうのがありますので、そういうことと、全体的にいろいろ考えないといけないなと考えております。

いろいろイベントが、実を言うとたくさんあるんですよ。例えば、社協でやっているイベントは結構多いんです。それから、私ども老人クラブでやっているイベントも結構あります。さきおとといはペタンク大会というのを多摩川の公園でやったんですけども、250人ぐらい集まりました。そのようなイベントが結構あるんです。ですから、そういうところへ、知って集まればどういうことをやっているのかなとわかってくるのではないかというようなこともあります。

それから、こども文化センターの行事もありますよね。私ども町会でもこども文化センターを利用していろいろ子どもたちと、例えばハロウィンとかの行事をやっているわけですけども、そういうところに皆さんが集まってこられるように知らせてやることも、自然にコミュニケーション能力がついてくるというふうにも考えております。これからいろいろな検討をされて、さらにこういう問題を活発にしていけば、多摩区の人がみんな声をかけ合うんじゃないかと考えております。

配島委員 配島です。

コミュニケーション能力を育むあいさつ運動なんですけれども、各学校や何かでもあいさつ運動はやはりしていると思うんですが、それだけではなくて、ここに書いてある標語だとか川柳だとかことわざづくりという例えがあるんですけども、そういうことで多摩区の子どもから大人まで、おじいちゃんから含めて、何か集まるイベントみたいなものができて、そこで川柳をつくろうとか、ことわざづくりをする、そのようなことができると、またもうちょっと違うコミュニケーションの輪が広がっていくのかなとも思うし、それをまたイベントカレンダーに載せて、そして多摩区をPRしていくというような、何かすごく展開できそうなことだと思います。とてもいいことだと思っています。

新田委員 川崎新田ボクシングジム、新田です。自然災害部会所属です。

まず、イベントカレンダーなんですけれども、多摩区のどこでどんなイベントがあるかというのは正直ほとんど知らないもので、こういうものがあると、あっ、今日はどこで何があるんだということが一目瞭然でわかるので、非常にすばらしいものだと思います。

います。ちょっと時間があいて、遊びに行こう、どこかに何かを見に行こうと思ったときに、今日はここでこういうのがあると一発でわかるので、こういうものがあるとすごく便利かなと思います。特に小さいお子さんを連れていらっしゃる親御さんなんかは、わざわざどこかまでいなくても、多摩区で今日こういうものがあるんだとわかると、本当にいいかなと思います。

多様な趣味にふれあえるとか、あと農業のところもそうなんですけれども、こういうイベントなんかもイベントカレンダーの中に、全部盛り込んだら大変なことになっちゃうと思うんですけれども、コミュニティに役立ちそうなイベントがあればイベントカレンダーにどんどん盛り込んでいって、参加者がふえてくれればいいのかと思います。

それから、コミュニケーション能力なんですけれども、あいさつ運動ということで、私のジムでも、最初は挨拶ができない子どもたちばかりなんですけれども、大体いじめられっ子だったり、学校からはみ出しちゃった子が来るので、そうすると、挨拶が基本できないんですけれども、周りのお兄ちゃんたちが挨拶をしていると、無理やり挨拶しろと言わなくても、自然に挨拶ができるようになってくるんです。周りがみんなやっていたら、きっとほかの人たちもやっていくという文化になっていくんじゃないかと思います。

昔、15年ぐらい前に1年ほどアメリカに住んでいたことがあったんですが、道をすれ違うだけの人なんですけれども、挨拶をしてくれるんです。日本に帰ってきてそれをやったら、ちょっと変な目で見られちゃったんですけれども、多分それは文化というか、習慣というか、そういう環境だと思うので、先ほどのうちのジムの子どもたちと同じように、多摩区で挨拶が自然に行えるような環境、文化ができれば、きっとみんながお互いに声をかけ合うようなまちになっていくのかなと思うので、何とか展開していただきたいと思います。

小塚委員 コミュニティ部会の小塚です。

イベントカレンダーは、やっぱり多摩区なのでその地域の中でいろんなものを行っていることがわかるのはすごくいいなと思っています。

あと、あいさつ運動ですが、小学生もそうなんですけれども、当番になると7時半までに行かなくちゃいけないというのがあって、結構早く子どもたちも行って、楽しそうにしているんです。老人会の人で、あのおじいちゃんがどうのこうのと結構お話ししているので、お友達になっているんじゃないかなと思います。ぜひできたらいいなと思っています。

岩崎委員 多摩区・3大学連携協議会の岩崎といいます。

今お話を伺っていて一番興味を持ったのが、前もそういうところがあったんですが、イベントカレンダーの件ですけれども、これはどういう形態でというプランが幾

つか書かれているんですけれども、せっかくつくっていただくのであれば、この例としては主に多摩区の行事が出ているんですが、例えば大学にも、多摩区に在住の学生もおりますし、大学祭、いわゆる大学のイベントなどもこういったところの盛り込んでいただくのも必要だと思うんです。

こういう区の中での行事を学生にも周知していただけるように、できたら紙ベースのものだけではなくてウェブ上に、例えば区のホームページからリンクを張っていただく。例えば大学のイベントですとリンクを張っていただいて、直接その大学のホームページに飛べるように、ビジュアル的にもどういう内容でやっているものなのかということがより具体的にわかるような仕組みというか、そういった仕掛けをしていただくと、特に若い世代の人にも積極的に活用していただけるようなものになるのではないかと感じました。

荒井委員 荒井です。

私、今日の中で21ページのコミュニケーション能力を育むというところで、あいさつ運動の展開が今回非常に印象に残りました。あいさつ運動を展開してはどうかということで、多摩区あいさつデーで日にちを決めて毎月キャンペーンをやるとか、あいさつ標語、川柳、この辺は非常に得意な方が皆さんいらっしゃると思いますし、また、そういうコンテストなんかをしてもすぐれたものが出てきて、皆さんの知恵がいろいろと出てくるんじゃないかなと期待できるころだと思います。また、あいさつ力検定とか、この辺は小学校、中学校で標語とか川柳とか、そういうこともそうだし、また全体的に、あいさつ力検定という、挨拶に対して挑戦する方がいろいろ出てくるんじゃないかというところで、非常に期待できるんじゃないかなと思いました。

安陪委員 自然災害部会の安陪でございます。

このイベントカレンダー等に関して、とても興味を持って見せていただきました。いろんな団体が各種イベント、それから活動をやっていると思いますので、そういうものには極力参加してみたいなという気持ちを持つような資料になると思うんです。ここにありますように、いろいろなイベント、地域、あるいは神社、そういうところに興味を持った方がお問い合わせできるような仕掛けをちょっとつくってみると、なお一層それに参加するよう方もふえるのかなという感じも受け取りました。

それから、コミュニケーション能力、あいさつ運動等に関しては、特にお子さんを持つ親御さんなどは、知らない人と余りなれなれしく話をするんじゃないよなんていうことを言っているんだということを知りますけれども、もっともなことなんですけれども、挨拶を盛んにして、お子さんにお声がけするようなことは、また一方、お子さん方の見守り運動という要素も深いものだと思いますので、こういうものを早く地域に根づかせて、気軽に声をかける環境づくりが進めば、なお住みよい楽しいまちに

なるやと思っております。

石橋副委員長 石橋でございます。

コミュニティ部会で「顔の見える地域に根ざした「絆」を構築する」ということで検討されて、先ほど部会長から具体的な取組のところのお話があったわけですがけれども、ちょっと日本語的に、コミュニケーション能力と、「能力」をつけなければだめなのかな。コミュニケーション能力といたら、話すことと聞くことと、皆入るとなる。だから、コミュニケーションというのはいいが、「能力」とつけると、それが挨拶というふうになるのか。

実はフォーラムで少し私がイントロを説明しなきゃならなくなったものですから、この文字を眺めて、今までずうっと何げなく読み通してきたんですけれども、コミュニケーション能力というのは「能力」という言葉までつけなきゃならないのかなというふうに、いまだにやはり、皆さんのお話を聞いていてもなお理解ができないのと、やはりイベントのことに関しては、この部会で内容についても議論してきたわけですから、この辺のところもきちんと説明していかないといけないのではないかなと。

非常に広範囲な話では、最後までまわっていないと思うんです。ここに書いてあるようなお祭りとか祭礼とか、これは催事という形になってはいますが、ある意味では限定的。この中に大学関係がないというのは本当にまずかったなと思っておりますから、そういうような資料のまとめ方に。やろうとする具体的な取組の中はこれでもいいと思うんですが。

最後は、部会長も言われた「農業」という言葉をこのままストレートに表現するのか、しないのかというのは、今日、委員の白井さんがいらっしゃらないものですから、また何とも言えないんですが、ここがフォーラムまでの間に工夫が必要だったら工夫しなきゃいけないかなと思います。

戸高副委員長 コミュニティ部会に所属しております戸高です。

イベントカレンダーについては、本当に個人的にもこういうものがあれば、まちを歩くこともとても楽しみになるんじゃないかなと思いますし、いろんな方の参加もふえるんじゃないかなと思っています。先ほど、大学とリンクできたら、もっといろんな意味でコミュニケーションにつながるようなきっかけにもなるのではないかと思います。

多様な趣味にふれあえるしかけ、これも実際に市民館デーでお手伝いをさせていただいて、この企画を盛り上げるほうの中で、参加した方を見て、やっぱりこういうものがまちの中で少しずついろいろあったら、もっと触れ合える場ができるのではないかと思います。

それから、先ほどありました3番目の農業の切口から地域の絆が生まれるしかけ、この「農業」というのは、多摩区らしい地域というところの一つとして出てきている

ので、もう少し言葉を変えて表現していくのも、もしかしたらいいのではないかと
いうことも。先日、実際にすてきな企画を実現されている方たちを見まして、もうちょ
っと言葉を選んで、そういうことがもっと地域の中でできることに広がるような、農
業だけではなくて、その地域のよさを共有できるようなきっかけ、仕掛けができた
らいいのではないかなということを感じましたので、つけ加えさせていただきます。

大津委員長 皆さん、ありがとうございました。今、各委員から前向きないろいろな評価
と同時に助言もいただいたと思います。コミュニティ部会に盛りだくさんな宿題が出
たと思います。これからのまとめに向けて、今日の各委員の御意見もしんしゃくしな
がら、もちろんフォーラムでもまた区民から御意見があるかもしれません。その辺を
しんしゃくしながら、また石橋副委員長が助言されましたように、御説明のときは
仔細ないと思いますが、もう少し中身のお話もされたほうがよろしいのかと思いま
す。私個人としては、カレンダーにしろ、いろいろとございますけれども、時間の制
約もございますから、私は皆さんと大体同じですから、省略させていただきます。あ
りありがとうございました。

では、次に、自然災害部会の審議結果の報告をお願いしたいと思います。

荒井委員 自然災害部会の審議状況について御報告させていただきます。

「いざという時に助け合える体制づくり」ということで、前回から検討させていた
だいた部分ですけれども、資料5、5ページ、6ページにございます。前回から比べ
てみて、どれほど変わっているかというところになりますと、甚だ、余り変わってい
ないんじゃないかという感じの部分があるんですけども、重点的にはフォーラムに
向けて意見を集約していったところがありますので、フォーラムのページを見ながら
御説明させていただきます。

13ページを開いていただきまして、3つの提案ということで、今、自然災害部会と
してはこの3つの提案に沿ってフォーラムで説明したいと思っています。1つは多摩
区版「備える。かわさき」の作成、2番が身近な防災マップの作成、3番目として
中・高・大学生との連携ということでございます。

最初の多摩区版「備える。かわさき」につきましては、14ページを開いていただき
まして、マグネット方式「備える。多摩区」ということで、今そこにあるよりも一回
り大きいサイズのマグネットをつくりまして、我が家の防災について考えるきかけ
とか、いざというときにこういうふうにするんだという非常に見やすい、冷蔵庫に貼
っていただく、あるいはドアに貼っていただくような形にして、いざというときにし
っかり備えるものをぜひつくったらどうかということです。

多摩区版「備える。かわさき」の2番目の例として、町内会の掲示板、川崎市の広
報掲示板等に、ここの例にあるように「この地域の避難所は〇〇小学校です」という
ような形で、誰もが注意して目にする掲示板にしっかりとこういうものを備えていくこ

とが大事じゃないかと考えています。

3つ目としましては15ページの回覧板方式ということで、いつも町内会の回覧板が回ってくるわけですが、そこに最新の防災に関する情報をしっかりと載っけていきたい。回覧板ですので、毎回回覧板が回ってくるたびにその情報を目にするようになるわけですが、なかなかふだん意識していなくても、あるときふっと回ってきた回覧板を見て、そのあたりの情報について、あっ、こういうことが大事なんだとか思っただけのようなものにできたらいいなと考えて進めています。特にこの回覧板方式につきましては、町会ごとに回覧板が違うということがありまして、どのようにしていい情報を載せていくかということが検討をしていく大きなテーマとなっているんですけれども、この辺についてはぜひ皆さんのほうからアイデアをお寄せいただければありがたいと思います。

それから、2番目の身近な防災マップの作成ということで、2つあります。

1つは多摩区防災マップということで、全区のものがA3程度の大きさですけれども、この中に最新版をつくりまして、一時避難所であるとか、防災の井戸であるとか、役立つ情報をしっかり入れ込んだものをつくればいいなと思って進めております。

16ページを見ていただいて、もう1つは身近な防災マップということです。全区版だけだと、実際に自分の家から避難所までがどういうふうになっているのか追っかけることができないということです。実際にどこをどのように通っていけばいいのか、また、どこが危険なのかということがより細かくわかるような体裁のものが必要だろうということで、ここに挙げたような項目をしっかりと入れて、例えば避難所単位であるとか、小学校区単位ぐらいにして、自分の家から避難所まで地図が見えるような、また、1つ1つどこに何があるのかすぐわかるような防災マップをつくってはどうかということで、下のほうに絵がありますけれども、作業も始めてみました。

そして17ページですけれども、中・高・大学生との連携ということで、3大学の連携もそうですし、また、中・高・大学生が地域と連携できる仕組みをぜひつくってきたいということで、検討を進めています。

下のほうにも避難所運営ゲームということで、いわゆる図上訓練というようなシミュレーションです。図上でシミュレーションをして、いざというときにどうすればいいのかということをしっかり意識していくための一つの例として挙げましたけれども、こういうことも通じて中・高・大学生との連携を図っていきたいと考えて、3つの大きなくくりとして、アイデアをつくりました。

そういうことで今進めておりますので、いろいろと御審議をいただければと思いますので、よろしくお願いたします。

大津委員長 荒井部会長、ありがとうございました。

ただいまの御報告に対して御意見がございましたら、御質問でも結構ですが、いかがでしょうか。細埜副部長、何か補足は。

細埜委員 特にありません。

大津委員長 よろしいですか。

細埜委員 はい。

大津委員長 御報告の中にございましたが、16ページの記述内容の中で、避難所並びに一時避難所という言葉がございます。これはいろんなそれぞれの立場で認識はあると思いますが、行政から見た場合にこういう解釈なり定義なり位置づけということがあると思います。その辺について行政からの説明をお願いしたいと思います。

事務局 それでは、御説明いたします。危機管理担当、森田と申します。

避難所につきましては、災害が発生した際に被災したことによって住居を失った方が生活を再建するまでの一時的な滞在場所、しばらくの間そちらで生活を送っていただくところが避難所という形になります。

一時避難所というのは、災害が起きた際に一時的に危険を避け、そこで安全を確保することを目的に用いられる、いわゆる大きな空間、広場のようなものになります。ですから、一時避難場所の場合には、そこではいわゆる生活をするということではなくて、一時的な退避場所というような形になります。

言葉の定義としては以上になります。

大津委員長 今、大きく2つの位置づけの話がございました。ややもしますと、避難所の運営委員会とかそれぞれございます。一時避難所も、その運営委員会なり、管理とかいうところに併合されているような錯覚に陥っています。その辺についての補足説明をお願いします。

事務局 それでは、補足いたします。避難所の運営につきましては、現在、町内会の方、学校の関係者の方、地域の方、それぞれ御参加いただきまして、避難所運営会議というものを設置し、そこで避難所開設時の初期においてのさまざまな役割分担、ルール、手続等を定めていただいて、運営についての論議もしくは訓練等を行っていただいております。

一時避難場所につきましては、特に市としてどこそこを一時避難場所として指定ということではございませんで、公園ですとか近くの空き地などをそれぞれの地域の方々が任意に選択していただきまして、そこを用いていただく。ですから、町内会等でどここの公園に何かがあったら集まりましょうというような取り決めもしくは約束などをしていただいて、そこに集まっていただき、一時的に身の安全を確保したところで、例えば自宅に戻る、または不幸にして自宅等が大きな損害を受け、生活ができなくなった場合には避難所のほうに向かうというような選択をしていただくためのスペースということになっております。

あともう1つですが、広域避難場所というものもございます。こちらにつきましては、一時避難場所のより大きなものと認識していただければよろしいかと思えます。例えば、多摩区内ですと多摩川の河川敷、また生田緑地など、大きな空間がございますが、こちらは、例えば大きな火事等が起こった際に多くの方々が避難できる広大な空間ということで、そちらの場所を指定させていただいております。ですから、広域避難場所については大きな一時避難場所のようなものというイメージを持っておいていただければよろしいかと思えます。

天津委員長 ありがとうございます。そういう認識でこれからの協議なり意見交換に入りたいと思えます。

それでは、先ほどとは逆に安陪さんのほうからお願いします。

安陪委員 安陪です。

今、委員長から説明がありましたように、我々のグループは、家庭内で用意すること、それから町会、こちらの回覧板を使った伝達方法、学生さんたちとの連携、若い力を導入して、スムーズな避難等ができるような方法はないかというような観点からまとめてみました。

家庭では、まず皆さんも始終お話ししているかと思うんですけども、いざその避難するとき、災害が起きたとき、とっさに、さっと持ち出せることが頭に浮かぶ用具。

それから回覧板。町内会等で使っているんですけども、これもいろいろ調べてみると、各町会それぞれいろいろな業者さんと話し合いながら、それぞれの形の回覧板の板を求めている。これも町会単位で業者と提携して、無料でそういう回覧板をつくっている。したがって、様式も大体は同じだけれども、各町会いろいろな種類であるということ。これを統一した形にして、重要避難事項というものを前面に出した回覧板。果たしてそういうふうなことにしているのかどうかということは、これは経費とか何かの問題も発生しますし、従来からの回覧板購入の手段等もありますし、一長一短あるんですけども、どんな回覧板に避難訓練ということが的確に表示できるような形のものがつくれるか。

防災マップにしても、各種資料は多々出ておりますけれども、その中で根本には、今自分がお住みになっている地域の地理的特性を最重点に頭に入れていただいて、そこから避難する場所、順路等を考えていくことをとっさにできなければ意味がない。そういうことを頭の中にたたき込む習慣を日常、重ね重ね続けて身の回りを見ていくということが結局は防災活動に役立つのではないかと、いろいろ調べ、研究しております。意外と奥深い問題であるんですけども、やはり御自分の住んでいる身の回りの状況を把握して、とっさの判断で、とっさの行動ができるということが根本になるんじゃないかなと思って、いろいろお話を進めております。

岩崎委員 多摩区・3大学連携協議会の岩崎です。

私も自分自身で、自然災害部会に参加をさせていただいて、主に3番で出てまいりました中・高・大学生との連携というところが立場上一番気にかかるところです。これは部会でもいろいろ意見を言わせていただいたんですけども、災害が起こったときに、確かに区民の方から学生との連携にかなり要望があるというのは肌で感じてはいるんですが、これは中学生、高校生、大学生、みんなそれぞれ立場は違うと思うんですけども、1つ共通点として言えるのは、まず本人の自助をきちんと確立できなければ、共助というところには行きつかないのかなと。学生のほうにも言っているんですけども、まずは自助の積み重ね。災害時に自助を確立できた人たちが多ければ多いほど、共助というところに力が向けられるのではないかというふうにも日ごろ考えております。

多分、中学生、高校生、大学生、それぞれ親御さんから預かった生徒、学生になるわけですから、まずはその人たちの身の安全の確保。それと、学生にも日ごろ話を聞きますと、やはり3・11のときもそうだったんですけども、親元を離れている学生であればあるほど、家族の身の安全がきちんと確認できないと、身近に要望があってもなかなか動けないだろうという話も学生からは聞いております。これから具体的にフォーラム等でも、一般の区民の方からもいろいろ御意見をいただく機会があるのだと思うんですけども、今申し上げました、まずは自助をきちんと確立できるように、区民の皆さんもそうですし、我々大学が預かっている学生、中学、高校の生徒も、まずはそこを確立させることが一番重要なのかなと自分自身では考えています。

小塚委員 コミュニティ部会の小塚です。

14ページの多摩区版「備える。かわさき」というところで掲示板のことを書いてあるんですけども、今、私、溝口にあるすくらむ21という男女共同参画センターの中で、女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクトのメンバーなんです。高津区の合同防災訓練とか防災ピクニック、今度多摩区のフェアとかにも参加させてもらうんですけども、その中で、この前、東京都の目黒区に行ったんですが、目黒区では居酒屋さんにも、この地域の避難場所はここですみたいに書いてあるんです。例えばどこかに飲みに行ったときに、全然地域が違うじゃないですか。そのときに、この地域はこの避難場所に逃げてくださいと居酒屋さんに書いてあったりとか、それぞれの行っている場所、歩く場所に必ずそういうものがあるような形があったので、こういう掲示板もいいんですけども、居場所にどこに行くんだよと書いてあったらいいなと思いました。

あと、HUG（避難所運営ゲーム）なんですけれども、今度、すくらむ21のほうでHUGゲームを1月に企画しているので、よかったら参加してみたいかなと思って、お話ししておきます。

辻野委員 コミュニティ部会の辻野です。

自然災害部会さんの提言を聞かせていただいて、多分我々の時代では周囲が皆顔見知り、家に鍵をかけたこともなかったなという時代を経験した方も大半いらっしゃるんじゃないかと思うんですけれども、そういう意味では、最近では、監視カメラだとかいろんなあれで、安全だけど安心できない社会という冷たい社会になりがちで、犯罪も増加しているという風潮になっています。自然災害部会さんの3つの提案等を見せていただいても、まさにその原点である、安心であって安全だ、近所の絆、地域の絆、地域の仲間の絆を強める、それを根底に置いた提言になっている点、やはりこれが近所、要するに近場の人の助け合いという原点なんだなと思いながら聞かせていただきました。ぜひこの提案の中身をそういう形で、安全・安心、安心・安全をテーマにした提言にさらにまた進んでいかれることを願いながら、私のほうもまたテーマとして、コミュニティ部会のほうもさらに突っ込まなくちゃいけないなと反省しています。

新田委員 自然災害部会に所属している新田ですが、なかなか参加ができなくて済みません。そんな身で申し上げるのも何なんですけれども、マグネット方式「備える。多摩区」のデザインはすばらしいなと思いました。多分これは、書き込み式なので、書き込むときに必ず家族で話をすると思います。そのときに意識が高まるし、お互いの確認ができる。まず書き込むという作業をすること自体がすごくすばらしいなと思うので、これは何としても実現をしていただきたいと思います。

さっき、言葉の説明のところで、避難所と一時避難場所、広域避難場所の定義について説明されていたんですが、マグネット方式「備える。多摩区」の場合、「避難所は」って書いてあるんですけれども、この場合、避難所は避難生活を送る場所ということですので、もしかしたらここで指している「避難所は」というのは一時避難場所のことかなと思ったりもしたんですけれども、またこれはちょっと確認をしていきたいなと思います。

それから、このHUGはすごくすばらしいなと思います。私、法人会という税務署の外郭団体にちょっと所属しているんですけれども、租税教室とって、税金について子どもたちの意識を高めるということで、小学校に出向いて行って税金クイズとか、税金の紙芝居みたいなことをやったりしているんですが、そのような形で小学校とか中学校、高校もそうですけれども、何か学校に出向いて行って、ゲーム感覚でできるような仕組みができたらいいかなど。今さらのアイデアで恐縮なんですけれども、今後そんなことができればいいかなと思ったりしました。

消防署でやっているAEDの市民救命士というのがあるんですけれども、その講習を受けると市民救命士のライセンスというか、そういうものがもらえるんですが、例えばこのHUGを受講とか、ゲームを体験したら何かライセンスがもらえるとか、

そういうものがあるとまたちょっとモチベーションになったりするかなと思ったりしました。

配島委員 コミュニティ部会の配島です。

大変興味のある、今、新田さんがお話しになったマグネット方式をとってもいい方式だし、私も書くとき、避難場所はどっちとか、持ち出し品はと、具体的に書くのか、どこにあるよと書くのかちょっと考えたんですけども、ある意味、それは家族で話し合っ書いてもいいのかなと思ったりもしました。うちは持ち出し品はあそのリュックだよとかね。それとも、何と何は忘れちゃいけないよとかというふうに相談しながら書くのもひとつおもしろいのかなと思いました。

あと、3番目の中・高・大学生との連携ですけれども、確かにおっしゃっていたように、学生自身の自助も共助もどちらも大切だと思うんです。ただ、何か聞いていると、してほしいということだけなのかなと聞こえてくる気がしたんです。そうではなくて、学生さんはアパートとかマンションに1人でのいるわけですから、何かあったときにその大屋さんとかオーナーさんとか近所の方々が逆に、大丈夫なのという声かけも必要だし、困っているんですけど力を貸してくれない？というような声かけをすることも私たちの中にちゃんと意識づけをしておかないといけないんじゃないかなと、何かすごく感じました。そうすることによって、あいさつ運動じゃないですけども、顔見知りになっていると気軽に声をかけられるし、何かあったときに大丈夫？と行けるし、学生さんのほうも、こうなんだけどって来てくれるしというふうに、コミュニケーションも含めて、連携がとれるともっとスムーズに行くのかなと思いました。

藤原委員 藤原と申します。自然災害部会に属しております。

避難所というのは、小学校、中学校に市が設置しているわけですね。その運営会議に私も出ておりますけれども、これは大体皆さん行き渡って知っていると思うんですが、この一時避難場所というのは、実を言うと各町会とか自治会でどこに設けてあるのかということは私どもでもまだはっきりわかっていないという問題があるわけです。実際は、やっぱり一時避難場所が多摩区の場合は一番必要です。例えば崖崩れが起こって、この前あそこでも起きましたけれども、そういうときに一時避難場所はどこなのか。

例えば1軒のうちの土砂崩れの災害に遭ったときに避難所は開いていないわけですから、そういうところをはっきり決めてもらって、そしてこれを皆さん方に周知するというふうにしないと、大きなときは広域避難場所へ行くけれども、それ以外のときは一時避難場所で一時退避するという形になるんじゃないかと思うんです。そういう面で、もう少し各町会・自治会の一時避難場所の設定というものを決めていただきたいと私は思っております。

細莖委員 自然災害部会の細莖です。

このマグネットは、比較的すぐに皆さん賛同していただけて、皆さんの御意見を聞いて、一応私がこの横型のものをデザインして提示したら、皆さんほぼ賛同していただきまして、前回の委員会の際に、決めた避難場所とか持ち出し品、緊急連絡先のほかに、各家庭で何か書くことがあるんじゃないかということで、縦にしてもう1欄足したというのが今回の変更箇所です。

それと、回覧板方式もなかなか決まらないんですけれども、どうしても回覧物を挟む下しかあいていない。前回も、そこだと誰も見ないんじゃないかという意見が非常に多かったんですけれども、それからうちへ帰りましてね。私、商人なので。昔の人は、こういうペットボトルなどがあると、この表のラベルしかほとんど見ないですよ。今は賞味期限とか原材料が裏に書いてあるので、まず裏を見る人が多いんですよ。ということは、今、商店街でも、何で個人商店とか商店街が下火になってきたかという、大手さんは毎週のように情報発信しているから、新製品なり発表をしているので、皆さんそういうところに行く。個人商店は、自分たちは50年も100年もこの場所で商売をやっているのだから、みんなが知っているはずだとか、そういう思い込みでずっと営業しているので、だんだん衰退していったと。コンサルタントの先生が、情報は発信し続けたいいけないということです。

それをちょっと頭に浮かべて、幾ら下であっても、例えば一時避難所と避難所の違いはとか、個人にとって大切な情報が載っていれば見るんじゃないかと私は思うんです。今回は避難所のことと——シリーズみたいになって、難しいかもしれないんですけれども、今回は避難所のことに関して、次回は自助と共助の違いとか、その次はこういうことですよとシリーズみたいになれば、皆さん見てくれるんじゃないかなと、この間、帰ってからちょっと気がつきましたので、今日一応提案しておきます。

本多委員 本多です。コミュニティ部会に属しています。

14ページから17ページまで、非常にいろいろと提案されて、こういうものが実現できればいいなと思いました。ただ、いろんな作成とか、連携とかと書いてあるんですけれども、一体どういうふうにして実現されるのかな。提言だから、最後は引き受けるのは行政さんのほうでしょうけれども、行政は本当にこれだけみんなやってくれるのかなと思って。やっていただければいいんですけれども、その辺がどのように実現されるのかとちょっと心配になってきました。提案は非常にいいと思うんですけれども、そういう感じがしました。

松本委員 本多さんに同感の側面があります。

どこかで漠然と、我々のところにはまだ来ないよなんていう気持ちをこの辺の人は持っているんじゃないかなと思います。災害は忘れたころと言いますけれども、そんなことでこういうものをつけたら、特に冷蔵庫に貼ってもらって、自分の家族で

書いてもらうというのはとても意識が具体的になるんじゃないか、とてもよろしいんじゃないかと思います。

それから、回覧板ですけれども、これは前回もお話したんですが、今日はたまたまうちのほうにも回覧がありまして、左側の一番下はやっぱり、最後の回覧が終わっちゃうと、下まではまためくらない。そんなことで、まだ検討されるということですから、いろいろな工夫もあるんじゃないかと思いますけれども。

それと、今、細埜さんが言われたんですけれども、定期的に、例えば年に2回とか1年に1回とか、内容を少し変えるとか、情報を変えると、そんなこともやるのでしょうか。できるだけ皆さんが見てくれるようなことではないかと。町会でやる回覧も、なかなか見てくれない。周知できていないところもあるので、その辺の工夫をぜひお願いしたいなと思います。

それからもう1つ、中高生が町会でも全然見えないんです。ふだんは部活とかいろんな塾とかでイベントなんかにはほとんど出てこないし、災害があったときにはもちろん部活なんかはありませんから出てきてくれるのかなと思うんですけれども、顔が見えないと非常に動きづらいなということがあるので、できるだけ、これは町会の努力も必要なのでしょうけれども、顔が見える中高生がいいなと思っています。この辺も何か知恵がありましたら、私も町会をやっているんで、教えていただけたらなと思っています。

吉田委員 自然災害部会の吉田でございます。

14ページの「備える。多摩区」でございますけれども、実はこのかわさき市政だよりたま区版11月1日号で「見直そうわが家の防災計画」と、非常に細かく7項目に分かれていろいろなことが書かれております。私もこれはよく読ませていただきましたけれども、頭にすっと入るわけにはいかなかったんですけど。そういう中で、今日このような我々が考えた「備える。多摩区」は、「避難所は」というところは、あなたの避難所はどこなんだということをまず頭に書くとか、「持ち出し品は」につきましては、今回の市政だよりたま区版の11月号で7項目、細かく書かれておりますけれども、これも頭に入れておきながら、なおこのように書いて、一番大切なものはこれなんだよ、あなたが持つていくものはこれなんだよ、避難場所はここなんだよということも書いたら、さっき実現性の問題というのがありましたけれども、実現性が、これはいいなと思っております。

それから、その下の掲示板ですけれども、「この地域の避難場所は〇〇小学校です」、「〇〇中学校です」、これにつきましても大変目に見えることで、皆様が掲示板を見ながらぱっと通ったときに目に見える、こういうことも皆さんが知るのによいかなと思って、ああ、私はここの学校なんだ、私の場所はここなんだということをはっきりとある程度見ていただくのがいいのかなと思っております。

大体、避難所運営会議というのは各小学校でも中学校でも、年に3回から4回やればいいところじゃないかと思っておりますので、その避難所運営会議なんていうものには一部の人しか出ませんので、自分はどこの避難場所なんだかわからない人が多いから、なるべく目に見えるところでこういうふうやって、見せてあげるような場所に貼ったらいいかなとも感じております。

それから回覧板方式、これは一番いいと思います。さきほど松本さんが言ったとおり、一番最後に見るようになってしまっていて、これはやはり事業所の人がお金を出すので、ここが一番いい場所で、大概いろんな事業所の、回覧板というのは広告屋さんが各町会にただでくださるもので、皆さんの商店とかからお金をいただいてつくってくださるということでございますので、この辺はちょっと、どういうふうにやったらいいのかなと思っております。

あとはHUGですね。17ページの避難所運営ゲームも、割に皆さん楽しくできるんじゃないかなということも、実現性に向けて非常にいいことだと思っております。

戸高副委員長 家族という面から、第1にありました多摩区版の「備える。かわさき」の作成ということで、これはなかなか、もしかしたら本当に難しいことなんじゃないかと思うんですけども、これにかわるものとしては、やっぱりマグネット方式で、さっき家庭でということがありましたけれども、これでしたら家族と話し合っ、それも3点についてみんなで話し合える、共有できるということで、一番身近なのはこういうことなのではないかと思うんです。

それと、もう1つ、自分の住んでいる場所で、自分たちが避難できる、身近なところのことをきちんと伝えていくというのは大事ではないかと思いました。掲示板とかにきちんと避難所を掲示することも大事だなと思いました。

回覧板のことは、情報発信の一つとしてのことだと思っておりますので、先ほどおっしゃいましたけれども、頻繁にいろいろな情報を発信して行って、キャッチしてもらおうという形のほうが私はいいのではないかなと、この間、ずっと見ていて思いました。うちの町会の回覧板も同じように、見ましたけれども、やっぱり最後に行っちゃうまでにたくさんあって、それよりはもっと見ていただけるようなものを発信していくことのほうが必要なのではないかと思っております。

防災マップの作成も、あわせて家族と一緒に相談できることではないかと思っておりますし、身近なところでこういう情報がきちんと入っていたら、現実のときにつながっていくかなということは、今お話を伺っていて、一番身近な家族というところでやっていけることから意見を言わせていただきました。

あともう1つは、地域での助け合いということなんだと思うんです。その辺で、この避難所運営ゲームみたいなところを町会単位とか、子どもたちなんかでもいいんですけれども、大人も子どもも学べる場で体験できるような機会も、情報発信と一緒に

あったらいいのではないかなということも感じました。

石橋副委員長 石橋でございます。

自然災害部会は、資料5に書いてありますように情報の周知という、3・11、東日本大震災を受けて、2年まで行かないところからスタートしたわけで、こちらも大きな震災があると言われていたにもかかわらず、それぞれの家庭での備えがない。皆さんから声も出ましたように、その意識をどう、余りに高めてオオカミが来た少年になっては困るんですけども、そこまで行くまでのところがやはり欠けているのではないかとこの部会が取り組んできました。この次のフォーラムに向けて出そうとする提案を「備える」というのも、私は、最初は難しい文章の備える版をつくるのかなと想定しましたら、最もわかりやすく、なおかつそれぞれの御家庭で書き込むことができるようにというところにも、これは家族で話し合うというポイントがあるのかなと思います。

今日の戸高さんの意見でふと思ったのは、防災マップはできるだけ中学校区単位ぐらいに、大きなものをつくって、さらにそこからブレークダウンしようとしたんですが、ここにも家族が書き込める余地を残したようなものをつくってもおもしろいかなと。本来これはフォーラムで出すべき意見なのでしょうけれども、そんなふうに感じました。何しろ、情報をもらっても、そこからもらいつ放しで使わないというところが、使えるようにするにはどうしたらいいかというところに知恵を出したわけだと思います。

たまたま仙台で私どもの障害者の方のお母さん方と会話をしましたけれども、不幸にして、3日前に結構大きな地震があって、そのときには津波が何もなかった。揺れは同じ程度だったから今回もないだろうということで最初は逃げなかったんだそうです。けれども、これは違うということで、津波に追っかけられるようにして逃げたという話からしても、てんでんこという文化が生きているようなところでも、やっぱり生きていないんだなということも感じました。この周知をどうやって徹底するかというところが今度はポイントになってくるのかなと思いました。

また、ちょっと前に戻りまして、13ページの自然災害部会の「いざという時に助け合える体制づくり」という、この「体制」というのは、3つの提案の中から私はどうもふぐあいではないかなというふうに感じております。「体制」という言葉はこういふときに使わないで、運営する体制とか、難しく言えば政治の体制だとか、何か辞書にはそういうふうにもなっていますので、ある意味では、いざという時に助け合える環境づくりとか、場づくりとか、何かもう少しやわらかい言葉にこの場で決めていただければ、私、フォーラムのときに非常に説明しやすいと感じております。

大津委員長 各委員、ありがとうございました。

私もことしの9月の初めに南相馬市のほうの被災地にある事情で行ってまいりまし

た。そこで、行政の方はおられませんでしたがけれども、社会福祉協議会の方とかいろんな団体の方から、今、石橋さんが聞かされたのと同じようなことも含めて聞きました。不本意な言い方をしますけれども、あの地域のほうが多摩区に比べたらよっぽど近隣とかの絆が深いですね。でも、ああいう状況になった。

最後の落ちは何を言いたいかというと、個人情報云々ということであったけれども、御存じのとおり、相馬市の市長と南相馬市の市長は、個人情報の住基台帳のコピーをとって、民生委員とか社協の役員に配った。ただし、サインして、用が済んだら返すという約束。そういう思い切ったことを行政も必要なときにはやっていただくということもいいのかなと感じました。

全体的にはいろんなことがあります。これからまた議論が進むと思いますけれども、時間の制約もありますから、自然災害部会についての意見交換はここで終わります。よろしゅうございますか。言い忘れたことがありましたら。どうぞ。

小塚委員 済みません、ちょっとだけなんですけれども、小学校とか中学校の避難所だと、大体体育館のほうに行かれると思うんですけれども、成功例は、学校の教室を開放してもらったそうなんです。その中で、教室を全部町会ごとに分けたということで、何とか町会の人そこへ行ってくださいという形にしたら、その部屋には自分の知っている人がみんないるということで、安心ができたと聞いています。ぜひそういうふうに開放していただけたら助かります。

天津委員長 ありがとうございます。今のこともこれからの運営委員会等の課題になるかと思います。

それでは、2つの部会の議論は終わります。議事（1）はこれで終わりにしたいと思います。

（2）区民会議フォーラムについて

天津委員長 続きまして、議事（2）でございますが、既に内容的には触れていることでございますが、11月23日土曜日の区民会議フォーラムに向けての協議に移りたいと思います。

最初に行政から、状況とか会の運営の仕方等について御説明はございますか。

事務局 それでは、事務局から、いよいよ11月23日土曜日に行います区民会議フォーラムについて御説明いたします。資料は7ページ、資料6からごらんいただきたいと思います。

この区民会議フォーラムですが、第4期区民会議の審議内容について区民の皆様へ広くお知らせするとともに、地域課題について一緒に考えていく機会としたいと思います。ですから、今見ていただいたパワーポイントの資料を使いながら、参加された区民の方と一緒に意見交換をして、意見をいただきながら最終的な報告のほうにまと

めていけたらと考えております。

時間ですけれども、フォーラム自体は午後1時半から4時までとなっております。開場自体は1時からです。場所は、ちょっと狭いかもしいんですが、この場所を使います。ここでやるんですけれども、1時から行きますので、恐縮なのですが、委員の方は、区民の方が入る30分前、ですから12時半に集合していただければと思っております。当日の具体的な会場を見ていただいて、そこで配置とか、いろいろやっていただければと思っております。ちょっと早いのですが、よろしくお願ひしたいと思ひます。

区民の方が入られるときに、今度はレイアウトを見ていただこうと思ひますが、資料の25ページにA3の区民会議フォーラムのレイアウト案がございます。こちらの会場で、テーマは大きくは自然災害とコミュニティと2つなんですけれども、コミュニティ部会につきましては地域参加の話とコミュニケーションの話を2つ、ここは大きくテーブルを使うということになりまして、こちらの配置図にございますように3つの大きなテーブルをテーマごとに用意しまして、そこにそれぞれ興味のある方が、一応御案内して、当初そちらにまずは座っていただくということを考えております。

資料の8ページをごらんいただければと思ひます。タイムスケジュールということ です。

1時半になりましたら開会いたしまして、最初に御挨拶を委員長からいただきます。第4期多摩区区民会議の概要ということは副委員長のほうで、10分程度のお時間で説明をいただくような形になります。概要を説明された後に、その日の進行方法の説明を事務局から5分程度させていただいて、その後にそれぞれの部会の検討経過を部会長からそれぞれ5分、2部会で10分程度で御説明をいただきます。

ここまでが全体に対しての御説明になりまして、いよいよ2時から各テーブルでテーマごとの話し合いとなります。ここからはそれぞれ3つのテーマごとに、部会の方で司会者もどなたかがやられるということが決まっていますので、司会者の方が進行していただいて、それぞれのテーブルには我々行政職員もつきますし、あとコンサルもついて、会議の進め方の補助をさせていただきたいと思ひます。

その中で意見交換をして、10分程度の休憩を挟んだ後に、最終的にはテーマごとにそのテーブルでまとめていただいたものを各テーマからの意見発表ということで、各テーマ5分ぐらいで3つございますので15分で報告いただいて、最後は副委員長の閉会挨拶と、そのようなプログラムのタイムスケジュールになっています。

資料の9ページ以降はフォーラムの資料になります。

9ページは開会あいさつ、10ページに区民会議とはということで、ここは石橋副委員長のほうで区民会議の説明をいただいて、次に11ページ、区民会議の流れになります。

その中で、下の方のパワーポイント資料の「第4期多摩区区民会議」の部分につきましては、この当初案を少し変更というか、もっと詳しく説明するという話がありました。本日、1枚ものでとじていないこちらの資料がお手元に追加であるかと思えます。これを見ていただきますと、「課題の把握とテーマの設定」、「区民会議フォーラムの開催」といった矢印が、随分すっきりわかりやすくなっています。「専門部会の設置と調査・審議」で「自然災害部会」、「コミュニティ部会」。その下の内容は、新たにいただいた資料によりますと、これまでの経過内容がより詳細に、具体的に出ております。それが最終的に提案につながったんだということで、「提案」と下に矢印が出ております。具体的な提案としては、後で詳しく各部会から出ます提案内容になるという形になっています。

よりわかりやすい説明資料になっていますので、基本的にはいただいた追加の資料のほうで、体裁を整えて、こういった内容に変えさせてもらえたらと今考えております。どうでしょうか。

石橋副委員長 私が説明しなければならないものですから、私流に整理し直させてもらったんですが、「提案」のところでもまた、コミュニティ部会のほうでイベントカレンダーの作成だけしか書いてありませんので、あと2つここに追加します。それで、いかに次の意見交換へつなげるかということを考えて、これ以上深く入った話はするつもりはございません。修正は、それを入れて修正させていただきたい。

事務局 ありがとうございます。提案の具体的な趣旨も今いただきました。

基本的にはこれで御了承いただければと考えておりますが、いかがでしょうか。

大津委員長 ありがとうございます。

今とじてある資料6の11ページを別紙のものに、これは内容的にも網羅されておりますし、この時間帯の次の両部会の説明とのオーバーラップも避けながらの表現ですので、私はこれで非常にすっきりとしたなと思いますけれども、皆様、御意見いかがでしょうか。特に両部会、部会長さん、ごらんいただいて、今までと全く感覚が違いますけれども、意図するところは、石橋副委員長がおっしゃったように、各区民からの意見が出やすい、引き出すための表現という理解でございますが、よろしゅうございますか。

では、最後に、先ほど石橋副委員長が気になる表現ということで、例えば資料の13ページ、自然災害部会の出だしの「いざという時に助け合える体制づくり」、この「体制」が私も実は気になっていましたけれども、余り深く考えなかった。確かに、石橋さんに概要の説明をしていただくものですから、これは気になると思います。

先ほど石橋さんのお言葉から、例えば環境、もしくは場ということがございました。その種の言葉に、平準的にしたほうがいいのかなと。確かに「体制」というと、区民の皆さんが、物すごくとんでもない、いい組織を行政でつくってくれるのかなと

思われても困りますので、素直な表現にしていったほうがいいのかなど。荒井部会長、どう思われますか。

荒井委員 このままでいいんじゃないでしょうか。非常に語呂がよくて、このまま、「いざという時に助け合える体制づくり」で来まして、出てきたアイデアとしても、ああ、そうだなというふうに納得いただいているので。要するに、この助け合える体制づくりという言葉がひとり歩きすると、そうなんですけれども、決してそういう意味ではないというふうに御理解いただけるんじゃないかと思うので、どうなんでしょう。環境づくりとか場づくりという表現にすると、何か違う気もしますので、このままでいいんじゃないでしょうか。どうでしょうか。

大津委員長 ほかに御意見はございますか。

岩崎委員 「体制」というと、やはり組織というイメージが強いという懸念がありで石橋委員から提案があったのだと思うんですけれども、もし組織ということではなくて、多摩区版「備える。かわさき」ですとか掲示板、あと回覧板とか防災マップといったものを総称して言うのだと、体制という組織ではなく、さっきコミュニティのほうでもあったと思うんですが、仕組みとか、そういうふうにその事象を捉えて総称で表現するというネーミングでもよろしいのではないかと思うんですが、いかがでしょうか。

大津委員長 本多委員はいろんなところでいろんな立場をお持ちですけれども、この言葉の使い方はどうですか。

本多委員 仕組みがいいと思います。

大津委員長 そうすると、両部会とも仕組みということで、志向性が似てきますから、ひょっとしたら素直に聞いてもらえるのかもしれないというような気がします。

ほかに御意見がある方はいらっしゃいますか。松本委員あたりは町会のお立場もあって、どうですか。

松本委員 よろしいんじゃないですか。仕組みがいいと思います。ただ、コミュニティ部会は仕組みじゃなくて「しかけ」です。

岩崎委員 失礼しました。

大津委員長 「しかけ」ですね。

荒井部会長、いかがですか。

荒井委員 そうですね。「しかけ」ではなくて、仕組みですね。

大津委員長 コミュニティの辻野部会長、どのように受けとめますか。

辻野委員 今、コミュニティはどこを訂正すると言われたんですか。

大津委員長 いや、コミュニティ部会のほうに合わせる感じになりますねということを上げているわけです。

小塚委員 仕組みに変えるという話です。コミュニティ部会は「しかけ」だから。

辻野委員 「しかけ」だから、いいんでしょう。

小塚委員 そうです。全然大丈夫です。

大津委員長 コミュニティのほうは「しかけ」、自然災害のほうは仕組み。

辻野委員 はい。という使い分けをするということですか。

本多委員 コミュニティも一緒という意味ですか。私は、環境のほうは仕組みでいいと思
ったんですけども。

大津委員長 そうですよ。

本多委員 コミュニティは……。

松本委員 いや、「しかけ」でいいんですよ。

本多委員 仕掛けとか、環境とか、気軽に挨拶を交わせる環境を育むにはとか、そのほう
がいいかなと思って、さっきから考えたんです。仕組みよりは。

松本委員 コミュニティは変えないの。

本多委員 コミュニティは変えない。この「能力」のまま？

辻野委員 そうです。

本多委員 これと、あと仕掛けとかね。

松本委員 でも、さっき「能力」が出たんだものね。

本多委員 コミュニケーション能力の、「能力」はちょっとどうかとおっしゃったので、
私はそれは……。

辻野委員 ちょっと混乱しているんですね。

大津委員長 コミュニティ部会のほうは変えませんよ。

本多委員 コミュニティ部会は変えなくていいんですか。

辻野委員 変えないです。

本多委員 そうですか。

大津委員長 自然災害のほうの「体制」という言葉だけを。

本多委員 それは仕組みとか仕掛けでもいいんじゃないかなと思います。

大津委員長 仕組みがいいですかね。各委員、いかがですか。

安陪委員 仕組みでいいんじゃないですか。やわらかい印象で。

大津委員長 それでは、荒井部会長、仕組みで手を打っていただけますか。では、事務
局、訂正をお願いします。「しくみ」で、平仮名です。漢字ですか。

本多委員 平仮名がいいな。

石橋副委員長 平仮名がいいです。

事務局 仕組みは平仮名ですか。

大津委員長 平仮名にします。

事務局 わかりました。では、「しくみ」に訂正します。

大津委員長 フォーラムに向けて、ほかにお気づきの点、もしくは御意見がございました

ら。いつとき、1分だけお時間をとります。

事務局 すみません。事務局からですが、今の理解でいくと、先ほどの「能力」の話と、「農業」の話がまだ2点、言葉の使い方があったんですが、資料の関係もございませので、もう1度確認させていただければと思います。

順番からいきますと「農業」なんですが、コミュニティ部会のほうですと、18ページ、農業の切口から地域の絆が生まれるしかけという表題になっていまして、具体的には20ページのほうに出ております。実は、コミュニティ部会の中でも「農業」というのはどうかなということが少しあったと思います。「農業」とは、業、なりわいになってしまいますので、例えばなんですけれども、そのときに出た案で、ちょっと長くなりますが、農・食育・健康と3つ入れちゃおうかという意見もあったりしました。今回、直す機会はこの全体会ぐらいしかないなので、農業ではなくて、農・食育・健康といった変更はどうでしょうかというか、御議論をいただければと。

大津委員長 農・食育・健康。

辻野委員 そうすると、広がり過ぎると思うんだよね。これはさんざんコミュニティ部会でも大変意見が分かれまして、実は、白井委員と国保委員の発案でもあったんですが、途中から白井委員との、それこそコミュニケーションがなかなかうまくとれなくて、最終的に10月15日に白井委員と打ち合わせをした中で、要するに、多摩区らしい形で、農業という形で、農園主の選定から考えていくと、今回の提言に持っていくのは無理だという白井委員の発言もあって、戸高副委員長と11月2日に食育のそういうことをやっているイベントを見学に行きました。

その段階で、非常にこれはすばらしいイベントなので、コミュニティ部会としては、やっぱりこれはやるべきだと。やるべきだけれども、我々の4期で具体的に提言はできない。時間的にもできない。そうすると、一応掲げるという形で、次善の策として、テーマは出して、次の区民会議が引き継ぐような形で提言すべきじゃないかという意見に10月29日の打ち合わせではなって、今日の皆さんへの報告という形になっています。

確かにこれは非常に意見が分かれて、フィフティ・フィフティになったり、6・4になったりしましたので、再度、逆に自然災害部会の皆さんも、多摩区をよく御存じの方の集まりなので、ここで、いや、それはちょっとやっぱり時期尚早だ、これは消すべきだという意見になれば取り下げたいと思いますし、いや、それは大命題として掲げ続けるべきだということに皆さんの御意見をいただいたのであれば掲げたいと思うので、ちょっと御意見をこの点についてはいただきたいと思うのが第1点です。

大津委員長 事務局の発言のように、「農業の切口」とぱっといきますと、例えば農協さんの関係、個々の生産農家との関係ということに決め打ちしていますよね。その割には1年半かけて何しているのかということにもなりかねないから、農業と決めてかか

るのをやめて、農・食育、健康をつけてもいいですけれども、少しやわらかくして、それから私の個人的気持ちでは、「農家ヒアリング、事例研究など」、この言葉を記述しない。すなわち、「しかけづくりを課題として協議をしてきました」とやわらかくまとめちゃったほうが無難ではないか。

辻野委員 なるほど。了解。

大津委員長 ほかの委員の皆さん、いかがですか。

戸高副委員長 先ほど、一緒に見学させていただいて私が感じたことを述べさせていただいた中に言った言葉なんですけれども、地域の特性を生かした形での絆が生まれる仕掛けづくりになるんじゃないかなというのを、実際に今うまくいっている事例を1日体験させていただいて、ここまで話してきた経過も、多摩区の中の状況も伺った上で感じたことなんです。

ですから、私たち部会の中では農業の切り口も1つであり、そこの中から食育もあってこういうふうにごくすてきな事例ができてきていると思うんですけれども、次に伝えていく上でも、現実のいい条件をきちんと並べて、最初のきっかけにこだわらずに、今までの経過から見て私が思うのは、この見させていただいた事例が農と食育と、本当の地域の特性、町会の皆さんも恵まれています。そこにあったよみうりランドの協力も得て、それと、行政の皆さんとも一緒に、そこで食育もでき、農家の方からもいろんな体験をさせていただける。トータルでできているとてもすばらしい見本だと思いますので、それを生かして行って、具体的にこれが並んでいるほうが、私は今回フォーラムで御意見をいただくに当たっては、とてもすっきりいくんじゃないかなと。

私たちが目指してきたことはありますけれども、このほうがフォーラムに……。

辻野委員 どのほうが。

戸高副委員長 農と食育と地域の特性を生かした、地域の絆が生まれる仕掛け——長いですね。

本多委員 今、戸高さんがおっしゃったように、この(3)のタイトルを「地域の特性を生かした絆が生まれるしかけ」にして、文章の中で、今おっしゃったように「多摩区らしい地域の絆づくりとして、今多くの人に関心をもっている農とか食育とか健康」というふうに文章の中で書かれたら、長くてもいいから、タイトルは短くして、今言ったように、「地域の特性を生かした絆が生まれるしかけ」というふうにされたらいかがですか。

戸高副委員長 ありがとうございます。

荒井委員 タイトルでよければ、例えば「地域の農作物から絆が生まれるしかけ」みたいな、そんな表現でもいいんじゃないでしょうか。どうでしょうか。

本多委員 広く捉えたいなと私は感じているんです。農作物だけに限らないで。

荒井委員 そうですか。なるほど。

本多委員 多摩区の特性を生かしたという意味で。

大津委員長 ほかに御意見はございますか。事務局、どうぞ。

事務局 ありがとうございます。今までの部会での議論とこの場での議論を踏まえまして、今、事務局で1回まとめさせてもらおうと、1案としては、「地域の特性を生かした絆が生まれるしかけ」、これで資料を今回お出ししたらどうでしょうか。

辻野委員 ありがとうございます。

大津委員長 中はどうしますか。中身、この下の記述です。

本多委員 「農業分野とからめて」というのだけ、削除したらどうですか。

辻野委員 そうですね。

本多委員 それで、「食育、健康をテーマとした」とすれば、一応当初の案に戻るんじゃないですかね。

事務局 今いただいている意見をまた繰り返して、まとめて読みます。「多摩区らしい地域の絆づくりとして、今多くの人に関心をもっている農、食育、健康をテーマとしたふれあいのしかけづくりを課題として協議をしてきました」。さっきのヒアリングとかをとっています。

本多委員 そうそう、それでいいんじゃないですか。

辻野委員 いいですね。すばらしい。

大津委員長 ということで、辻野部会長、よろしゅうございますか。

辻野委員 ありがとうございます。何か目からうろこですね。

大津委員長 もう1段ステップアップした形だと思います。

辻野委員 そうですね。すばらしい。

大津委員長 ありがとうございます。

もう1ページ、次の「能力」を。

事務局 次の21ページですが、「コミュニケーション能力を育む」ということで来ております。この「能力」の部分ですね。「能力」まで入れる必要があるのかというお話がございました。ですから、例えば本当にとってしまうと「コミュニケーションを育む」。

本多委員 ちょっと私の考えは、コミュニケーションも外しちゃって、「気楽にあいさつを交せる環境を育むには」というふうにして——ここの間のところですよ。この左のほうの文章のところです。

辻野委員 コミュニケーションを育むという日本語はあるのかな。得意な石橋さん。

石橋副委員長 いや、わかりません。私は、コミュニケーション能力という「能力」の2文字だったら、話すほうと聞くほうとあるねという意味で言ったんです。今回は、話すほうの一方向だけしかない。普通コミュニケーション能力といたら、今、社会的

には人の話を聞くということを主体にいろんな活動があるものですから、ちょっとそこ
このところでひっかかっただけで、片方しかないねという意味で言っただけです。

辻野委員 なるほど。あいさつ運動というのは、もともとツーウェイですから、「こんに
ちは」、「こんにちは」と返す。笑顔に笑顔で返すということ。「ヘイ」、「ヘイ」
で返す。ハグでも何でもそうですから、ツーウェイだから、別にコミュニケーション
能力を育むというのは、そう突飛なことではないという部分はあると思うんですけれ
ども。ただ、確かにおっしゃるように、能力を育むというのはちょっと区民の皆さん
が、私たち、能力ないのという発想になってくると、確かに気をつけたほうがいいか
なという意味では、私もちょっと危惧するところです。

私も10回打ち合わせをしてきて、すんなり今まで来ていて、地域コミュニケーション
の再生というのか、もともと多摩区ではそういうことがかつては、挨拶をみんなし
ていたよ、それがいつの間にかすたれてきちゃった。これをもう1回復活させようよ
という意味で、地域コミュニケーションの再生とか復活とか、何かそういうことにし
たら、石橋さんの挨拶のときにしやすくなるのかな。いかがでしょうか。もし変える
とすれば。ただ、言葉が固過ぎるなという部分があれば、ちょっと皆さんのアイデア
をおかりしたら。日本語の得意なやわらかいところで、もてなしの文化。戸高さん。

戸高副委員長 難しいですね。やわらかくというより、本当にそのまま地域コミュニケー
ションの再生というのをきちんとうたって、その中で、ちゃんと下に述べてあるわけ
ですから、タイトルとしてはそんなに固いものではないかと。

辻野委員 地域コミュニケーションの再生でいいですか。

戸高副委員長 はい。私はすっきりするのではないかと思います。

辻野委員 配島さんはどうですか。教育者として。

配島委員 いいえ、とんでもないです。

やわらかい言葉とするのなら、再生よりも、やはりコミュニケーションを深めよう
とか広げようのほうが、言葉としてはやさしいのかなとは思いますが、ただ、
それが適切かどうか。題のような形にして……。マイクが今来たんですけど。再生と
か復活とかという言葉もいいとは思いますが、そのほうがすっきりしているの
かなと。それで、説明の中でやわらかく、広めようとか深めようという言葉を使っ
ただければ、伝わっていくのではないかとと思います。

辻野委員 そうすると、コミュニケーションという横文字があって、広めよう、深めよう
という、ちょっとそぐわないんですね。あいさつ運動を何とかしよう、広げよう
とか拡大しよう日本語にするのだったら、すんなり言葉になるんだけど、コミ
ュニケーションという横文字をそのまま入れちゃうと……。

配島委員 そうすると、コミュニケーションアップとなってしまいますよね。

辻野委員 そうそう。そういうふうに。だから、そこらが日本語の。大学の先生のほうが

……。ちょっといい言葉が。大津さんが一番いい言葉を知っているから。どうですか。

大津委員長 いえいえ。皆さんの言葉を利用させてもらって、タイトルは「地域コミュニケーションの再生」で切っちゃう。

辻野委員 よろしいですか。

大津委員長 ええ。本多委員が気にされていた左側の言葉、「気軽にあいさつを交せる環境を再生する」とか、そんな形にすると、タイトルと補足が合うのかなと思うんです。

辻野委員 そうですね。そういう感じで私は了解です。細埜さん、どうですか。

細埜委員 今ので。

辻野委員 いいですか。

細埜委員 委員長のでいいと思います。

大津委員長 では、事務局、おさらいをしてみてくださいか。

事務局 それでは、今の案ですと、まず表題ですが「地域コミュニケーションの再生」になります。その下、(1)あいさつ運動の展開は変わらないんですが、問題意識として下に書いてありますところが「気軽にあいさつを交せる環境を再生する」と。

辻野委員 コミュニケーションは入れるんでしょう。

事務局 コミュニケーションは、今回、ここには入らないです。表題には「地域コミュニケーションの再生」と。

辻野委員 「気軽にあいさつを交せる環境を醸成する」……。

事務局 「環境を再生する」。

大津委員長 「再生するには」かな、ここではね。

辻野委員 なるほど。いいですね。何かすっきりしましたね。ありがとうございます。

大津委員長 それでは、辻野部会長もその辺で妥協していただいて。

辻野委員 いえいえ、妥協では。正解です。

大津委員長 各委員さん、よろしいでしょうか。

辻野委員 副部会長の意見は。

松本委員 ちょっと何かなじまないところもあるんですけども、「能力」というのは、私も部会では前から気にしていたんです。私は昔、大きな企業で能力開発室なんていうのにいたものですから、教育部門にずっといた経験もあって、さっき言われたように、やっぱり何か能力がないとか、あるいは区民の方にこういう能力を育むんだよ、もっとやらなきゃいけないよみたいな、ちょっと高いところから言っているような固い言葉だから。ただ、ここで言葉のあれをしても、時間がどんどん、余り意味がないと思うので。

例えば、私はもとのこれでもいいと思ったんです。というのは、その下にちゃん

と、これについては、ああ、何だ、こんなことかと思うようなことが書いてあるわけですから、それはそれで、もうよろしいんじゃないかとも思いましたので。今お話があったのを言っても、みんな余りぴたっとは来ないなという感じはちょっとあります。

辻野委員 もう1つ、区民会議の広報で今出しているのと違う点については問題ないんですね。

事務局 区民会議の今までの広報と変わってくるのは、そこはもう議論の流れで、前のが確定というわけではないですから、最終に向けていいものをつくっていくということです。

辻野委員 ということだそうですね。

大津委員長 それでは、この辺で手を打ちたいと思います。よろしゅうございますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

大津委員長 進行が、時間をちょっとオーバーいたして、申しわけございません。議事はこれで終了でございます。

先ほど事務局からのお話のように、フォーラムのときは、我々委員は12時30分。開場が13時ですので、区民の皆さんが1時にお見えだろうと。その30分前というのが12時30分の集合という要請でございますので、ぜひその時間に御足労願いたいと思います。

それでは、遅くなりましたけれども、御来場いただきました参与の方々から、講評なりお言葉を賜りたいと思います。最初は井口議員、お願いします。

井口参与 御紹介いただきました参与の井口でございます。

本当に長い時間の御討論、御苦労さまでございました。私、本当に今日、何て言うか、感動して伺っていたんですけども、地域の絆を深めるとか、防災とか、漠とした、本当に大変大きな問題をこんなに長い時間御議論されて、結果としては非常にわかりやすい行動に最後、収れんされていくというこの作業の、皆さんの御熱心な御議論と、それからその力というか、ここには本当に私も学ばされることが大変ありました。ぜひ、この1つ1つが実現いたしますように、私どもも頑張っていきたいと思えますし、こうした議論の過程が区民の皆さんにわかっていただけたらいいなと本当に思いましたので、今度のフォーラムの成功もぜひ御祈念したいと思います。

と言いながら、私、大変申しわけないんですが、23日は所用がありまして伺えない。本当に申しわけないんですけども、その成功を祈念したいと思うことと、それと、一度には全部の区民、20何万人にいかないとは思いますが、でも、この努力が一步一步実っていくのではないかと改めて確信をいたしました。この第4期の皆様方の御努力を本当に心から感謝したいと思います。まだもう少しありますけれども、ぜひ最後まで頑張ってくださいと思います。どうも御苦労さまでございませ

た。

大津委員長 ありがとうございます。続きまして、露木議員、お願いします。

露木参与 参与の露木でございます。

私、ちょっとこのところほかの所用とかで欠席してしまって、久しぶりに参加させていただいたんですけれども、地域の絆づくり、人と人との和、本当に大震災以後の中心的なテーマを熱心に取り組んで、御議論なさっていらっしやいまして、私も感激いたしました。

今日遅れてきたのは、佐賀市のほうから戻ってきたんですけれども、そこで子どもへのまなざし条例というのを学んできたんですが、地域全体で子どもたちがコミュニティをつくれていない。地域に子どもが参加しないとか、そんなことから、もっともっと子どもたちを地域に引っ張り出そうという取り組みも勉強してきました。その中に、今もコミュニケーションや絆がどんどん薄れている。子どももそうだし、大人もそうだし、昔はみんな地域でわいわいやっていたのに、どうやってそれを再生しているかという危機感があったと思います。皆様とその点も同じだと思います。

地域でも、私も、感想なんですけれども、盆踊りとか行事とかにいろいろ参加させていただくと、町会ごとに取り組みをすごく工夫されているというのがあって、いろんな特色があるなど。それぞれ努力なさっていらっしやるところもあるので、また違う面でもそういう努力ということや、その交流も図ればいいのか。また、この区民会議とのつながりといったものもあらわれてくると、より現実的になっていくかなというふうにも思います。

1つちょっと、区民会議フォーラムはこの会場でというのは、ちょっと私はがっかりしたんですけれども、もっともっと大きい会場で、いっぱい人を集めて、広がりをつくりたいという希望はあります。多くの方がね。この皆さんは当然参加なさるし、それぞれの組織の代表として出ていらっしやる方も多いと思うので、ぜひぜひ、この会場では足りなくなっちゃって、もっとほかの会議室を借りようよというぐらいに、23日、なってくればいいのかと思うので、それぞれの方があとお1人、お2人はつれてきていただく。そして、多くの方に広がって行って、ますますいろいろな方の御意見もいただきながら、この区民会議がフォーラムを機会にもっと広がって、素晴らしい実効性のあるものになっていっていただけるといいかなという期待も申し上げながら、皆様にエールを送りたいと思います。

今日は御苦労さまでした。

大津委員長 参与の御二方、ありがとうございます。

3 閉会挨拶

大津委員長 では、最後に閉会の挨拶方々、今日の締めくくりを石橋副委員長からお願い

します。

石橋副委員長 予定を大分オーバーしておりますが、皆さん長時間にわたりました審議をありがとうございます。両部会とも、顔が見えるということを1つキーワードに置いてこれまで作業をして、やっとここで中間報告という形でフォーラムを迎えるわけです。露木参与からも言われましたけれども、露木参与も含めて、23日に1人でも多く参加していただけるように、委員は言うに及ばず、関係の方にお声がけをして、23日、この部屋では足りないというような状況をつくれればなと思っております。

長時間の御審議、どうもありがとうございました。

大津委員長 それでは、遅くなりましたが、これをもって閉会といたします。お疲れさまでございました。ありがとうございます。区長をはじめ幹部職員の方々も遅くまでありがとうございました。

午後8時14分閉会